

## 令和4年度 第2回長野市総合教育会議 議事録（要旨）

1 日 時 令和4年11月2日（水） 午後3時～午後4時30分

2 会 場 長野市役所第一庁舎5階 庁議室

3 次 第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議事

①生活困窮世帯等の子どもへの学習支援について

②松代地区の文化財の教育利用促進について

(4) 閉会

4 出席者

○荻原健司市長

○長野市教育委員会

丸山陽一教育長、近藤守教育長職務代理者、倉石和明委員、塚田まゆり委員  
茅野理恵委員

○オブザーバー

西澤雅樹副市長

○職員

下平企画政策部長、藤澤教育次長、勝野教育次長、中澤保健福祉部長、  
日台こども未来部長、小林文化スポーツ振興部長、上石参事兼学校教育課長、  
島田企画政策部次長兼秘書課長ほか関係する市長部局及び教育委員会事務局の職員

5 会議要旨

(1) 開会 進行：下平企画政策部長

(2) あいさつ

荻原市長

- ・教育委員の皆様にお集まりいただき、お礼申し上げます。
- ・市長就任から間もなく1年を迎えるが、様々な課題に取り組んできた。子育てに関しては、本年4月には子育てに関する相談窓口を一本化するため、こども総合支援センター（通称：あのえっと）を開設し、9月末現在で650件を超える相談が寄せられている。

- ・先日、教育委員の皆様で川崎市にある「子ども夢パーク・フリースペースえん」を視察されたと伺った。全国的に学校に足が向かない子どもたちが増えているとの報道があったが長野市も例外ではない。子どもたちを誰一人も取り残すことなく、しっかり支援していくために、視察を通して感じられたことを今後議論いただくようお願いする。
- ・皆様から忌憚のない意見を頂戴したい。

#### 丸山教育長

- ・本日は、「総合教育会議」を開催いただき、感謝申し上げます。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の状況を見極め、創意工夫しながら修学旅行、文化祭等、学校行事が実施され、子どもたちの思い出に残る教育活動が戻りつつある。今後ますます子どもたちの活動の場を広げ、より充実した学校生活が送れるよう、教育現場と一層の連携を強めてまいりたい。
- ・松代地区の文化財の教育利用促進については、市内の指定等文化財の約3割が松代地区にあり、その多くは、松代藩や真田家にまつわるものであるが、松代地区の学校は別として、これらを学校の授業の中に位置づけ、活用していくことには、なかなか難しい面がある。
- ・現在、児童生徒には一人一台タブレット端末が配備され、以前とは異なるICTによる教育環境を生かすことも可能である。文化財の積極的な活用方策の一つとして、学校向けに、学習指導要領や教科書に沿った文化財の教材化につながる情報を提供してみたいと考えているので協議をお願いしたい。
- ・本日は、忌憚のない活発な意見交換の場となるようお願いする。

#### (3) 議事

##### ①生活困窮世帯等の子どもの学習支援について

- ・中澤保健福祉部長から資料1-1に基づき説明
- ・日台こども未来部長から資料1-2に基づき説明

#### 【意見交換】

(市長) 生活困窮者学習支援事業について、ケースワーカーやスクールソーシャルワーカーを通じて制度を知った方の割合が高いので、引き続き周知を図りつつ、現場のニーズもしっかりと捉えてほしい。制度利用の働きかけは保護者に対して行っているのか。

(生活支援課長) 10月から、ケースワーカーが中学生のいる世帯を中心に、生徒本人とも話をしている。しかし、保護者の理解が得られない場合や生徒からも部活

が忙しいという話がでる場合があるなど、やはり最初は少し抵抗感があるようなので、これからも引き続き家族に寄り添いながら働きかけを行っていく。

(委員) 子どもたち自身がこの支援を受けてよかったと思える経験ができるということが何より大事なことはないかなと思う。例えば、自分の望む将来に対して、力になってくれる大人がいる、地域がある、そして制度があるということを知ってそれを実感してもらう。このような制度を使えば自己実現ができるという思いを育てていくことがこの事業の価値ではないか。

不登校や子どもの自殺の問題などがあるが、人を頼ることは迷惑をかけること、自立できていないことという認識を強く持っていたりするが、そうではなく、自己実現していくことをみんなが応援しているということをどのように伝えていけるかが大切である。

(保健福祉部長) 事業目的は、もちろん勉強も教えるが、正しい生活習慣、学習習慣の定着に重きを置いて、先ほど委員がおっしゃった自己実現のような、この支援を受けて良かったと思われるような内容となるよう市と事業者が共通認識の中でやっている。

(こども未来部長) 学習支援員が学習についてだけではなく、将来のことなど様々な相談を受けている。その中で、人に頼ったりしながら、自己実現に向けて、自分をさらけ出す場になっていると考えている。

(委員) この事業を利用しているのは学習意欲がある子どもたちだと思う。  
こども総合支援センターに寄せられる相談の中から、学ぶ意欲のないあるいは学ぶことに価値を見いだせない家庭を掘り起こして、スクールソーシャルワーカーなどの支援により、保護者の問題を解決していかなければならない。その辺りは教育委員会とも連携しながら、進めていかないといけない。

(委員) 家庭の環境という部分も大事ではないかという話があったが、「あのえっと」で相談を受けている中での実感を伺いたい。

(こども未来部長) 「あのえっと」は、教育センターで教育相談をしていた指導主事のほか、教育委員会の指導主事も兼務で相談を受ける体制をとっているため、学校での状況についても、情報共有をする場面が多くなっている。

家庭に直接入って話を聞く際にも、スクールソーシャルワーカーなど色々な方々の力を借りる場面も増えてきており、今後もより一層、教育委員会との

連携を図っていく必要があると考えている。

(委員) コロナ禍で、なかなか人が集まりづらいので利用者が伸びていないという要因もあるのかもしれないが、これらの事業を始めたきっかけは、教育格差の問題等もあり、ひとり親家庭や生活貧困世帯の子どもたちに対して学習支援を行うという同じような趣旨である。利用者が減少傾向にある状況で、どのような呼びかけや、工夫を考えているのか。

(こども未来部長) 学習習慣の定着・学習支援が目的であるため、内容が「物足りない」との声もあるので、例えば、中学3年生であれば後半は受験対策的なものを取り入れるなど内容の検討が必要と考えており、今年度ニーズ調査を行う予定である。

(委員) 生活困窮者学習支援事業について、対象となる全世帯に案内をしているのか。また、アンケートはとっているのか。

(保健福祉部長・生活支援課) 対象となる生活保護世帯については、毎年春頃に通知を渡して案内している。ケースワーカーは定期的に話をする機会があるので、その後も機会を捉えて案内し、なおかつ今年は中学生本人にも直接話をしている。アンケートは毎年行っており、次年度の事業に反映をさせている。

(教育長) 令和3年度GIGAスクール構想が始まって、1人1台タブレット端末が配備され、現在は家庭への持ち帰りも許可している。タブレットには「未来シード」という学習用ソフトが入っており、そこに「ドリルパーク」というゲーム感覚でやれるソフトもある。マンツーマンの指導には勝てないと思うが、そちらの方が興味を持って利用している子どももいると思うので、家庭学習について教育委員会としても連携をしてみたい。

(委員) 難しい問題だが、貧困の連鎖の防止に向けて、親御さんも巻き込んで、生活保護受給世帯や引きこもりを減らしていく手段の一つとして、この学習支援事業があると思う。社会に出ていきましょう、自立していきましょう、学習支援事業はそのための一つの手段ですよということを、ケースワーカーは根気よく周知をしてほしい。

(保健福祉部長) 引きこもり支援については、昨年から社協に引きこもりのアウトリーチの専門職員2名、専任で配置しました。また保健所でも、親御さんへの

引きこもり支援活動をやっております。ぜひこの事業も、こども未来部や保健所、そして教育委員会とも連携してPRを行い、市全体をとして貧困の連鎖の防止に取り組んでまいりたい。

(勝野次長) 不登校の話題になるが、平成 29 年度まで、千人当たりの不登校生の割合が、長野市は全国平均・県平均よりも高かったが、平成 30 年度から差が縮まり、令和 3 年度は全国や県より低くなった。

現在、なぜそのような結果になったのか分析をしているところだが、学習支援事業もその一つの効果かもしれない。子どもたちにとってありがたいものであるので、継続していただければありがたい。

## ②松代地区の文化財の教育利用促進について

・藤澤教育次長から資料 2 に基づき説明

### 【意見交換】

(委員) 教科書では、武家諸法度では福島正則のことが取り上げられることが多いが、地元松代藩でも、洪水後の堀さらいですら幕府に許可をとるためにこんなに気を使っていたことが分かる資料になっている。これらは、地域から日本史全体を眺める学習になるので、学校と連携して授業に取り入れれば、子どもたちの郷土に対する愛情が一層深まるのではないか。

(委員) これほどたくさんのお宝がある松代は稀有だと思う。子どもたちの教材としてだけでなく、Y o u T u b eなどで全国の子どもたちにも発信したらどうか。

(藤澤教育次長) これからの話になるが、魅力的なデジタルコンテンツの発信について検討していきたい。

(委員) 郷土愛というか長野に対する愛着を育む機会として、我々が子どもの頃は、松代などに遠足に行ったりしたが、最近は限定的になっていると聞いている。先ほど、「お宝」という話があったが、そのようなものを体感できる、そして自分が長野で生まれ育って良かったと誇りに思えるには、そのような情操教育も必要ではないか。

教育委員会でも、遠足や社会見学などで地元の文化や歴史に触れる機会を作ってほしい。

(司会) 遠足や社会見学などの学校行事の現状を伺いたい。

(藤澤教育次長) 4年生になると市立博物館で善光寺平の歴史を学ぶ学校が多く、また個々の学校単位で、地元の歴史を学ぶ授業を行っている。

なお、大室古墳群については、周辺道路の整備にめどが付いたので、社会見学で使用する学校も増えてくると考えている。

(委員) その地域だけを見るのではなく、その地域を見るとやはり日本史が分かる、世界史が分かるという視野を持った教材化をお願いしたい。大室古墳群も、もう少し研究が進み、日本の古代において、朝鮮大陸との関係でかなり重要な地域であったというところから発信してだんだん視野が広がっていくと、郷土愛がさらに更に深まっていくと思う。

(委員) 武家諸法度とか参勤交代について、漢字を間違えずにしっかり書くみたいなのが学びになってしまっている。それも大事であるが、今回の資料を活用すれば、単なる知識だけではなく、具体的にイメージが広がり、すごく豊かな学びに繋がると感じた。

(市長) もちろん知識も重要だが、やはり自分の目で見て、触り、体で感じること、体感することはすごく大事なことだと思う。

これだけすごい施設があるので、リアルな体験、バーチャルな体験も含めて、ここで様々な学びができれば良いと思う。

荻原市長(まとめ)：

- ・皆様に多様な御意見をいただき感謝申し上げます。
- ・教育委員会を含めて長野市として、皆様のご意見を参考にさせていただき、様々な検討を進めてまいります。